水上町藤原地区の地域資源活用調査。要約版

地域の宝物(=資源)は何か

1)日本人の心の原風景

(奥里山、里山集落、茅葺き屋根、茅原、首都圏の水瓶、 湧水、水路、湖、流水の音)

- 2)藤原を支えてきた様々な自然
 - (山、沢、風、ススキ、紅葉、雪、星空、青空、空気、 昆虫、野鳥、野草、樹木、動物)
- 3)置き去りにされた歴史遺産
 - (茅場・元入会地、休耕田、放棄林地、空家古民家、 古道、石仏、史跡、落人伝説)
- 4)僅かに残る故習
 - (獅子舞、茅刈り、野焼き、かんじき、黒米、)
- 5)山里の食文化
 - (山菜・キノコ等地元の食材を加工した料理、 雪国固有の保存食、発酵食、森の幸、ボタ)









地域資源活用の基本方針

手付かずの豊かな自然

豊かな自然食文化

消えそうな地場産業

消えそうな伝統芸能

★ 保全・整備により散策資源

- ➡ スローフード、食事・料理、体験メニュー
- ➡ 復活させて特産品、都市住民の体験メニュー
- ➡ 継承・復活させてイベントの目玉
- 取り残された古老・人財 ➡ 地域まるごと博物館の学芸員
- 放置されている歴史遺産 🗪 整備・案内すれば史跡巡り・古道散策

活用方策 - 仕掛けづくり -

(1)古道ネットワークづくりと藤原ガイドマップづくり

(歩いて自然や歴史を探索できるルートづくり、古道の整備、道祖神・石碑の補修、セラピ ーロード、ガイドマップづくり、案内人育成)

(2)湧水ネットワークづくりと藤原ガイドマップへの取り込み

(湧水地・成分調査、湧水めぐりルートづくり、湧水地整備、ネーミング・PR、殿田用水 路の整備、渓流遊び場整備)

(3)都市住民藤原ライフづくり

(野焼き,カヤ刈りを中心とした茅場の保全、カヤ葺き屋根の葺き替え、都市住民が昔の地 場産業を楽しむ、休耕田利用、田・蕎麦畑ノオーナー制度、ビオトープ田んぼ、田んぼの学 校、カラマツ林ノ間伐・倒木の除去と木材利用、空家補修の賃借ネットワークづくり)

(5)藤原の四季写真・風景画コンテスト

(知られていない風景・生物の発掘、絵葉書や観光 P R の素材に)

(4)藤原デザインガイドライン

(建物形状・材料・色彩・看板・外構植裁などについて藤原らしいデザインコードを設ける、 藤原景観条例設定、車乗り入れ禁止エリア設定)

(6)地域伝統の食文化の発掘・伝承と育成

藤原料理集作成(山菜・野菜の旬、宿自慢の料理、山菜のおいしい食べ方、料理のレシピ)

(7) 案内人倶楽部(=エコミュージアムの学芸員)の組織

(地元案内人の選定と育成、案内マニュアルの充実、受入れ態勢の整備)

(8)地域文化拠点づくり(エコミュージアムのコアセンター)

(空家古民家をリフォーム又は藤原小・中学校校舎の利用により活動拠点、通年・リピート・ 長期滞在型宿泊施設による地元雇用の創出)

地域丸ごと博物館のサテライト整備

藤原地区全体を日本一のエコミュージアム(地域丸ごと博物館)として整備

- ・上記活用策を地元・地元行政・都市住民が三位一体となって展開することにより、サテライトならびにエコとレール(フットパス)を整備
- ・首都圏の団塊シニア層に整備作業への参画を呼びかけ、これを"エコ・アクション・ツアー"として組織し、彼等のやりがい・生きがい・憩いと安らぎの場・機会を提供するとともに、地元には通年リピート・長期滞在指向の通い型観光客を新たに供給する
- ・古道ならびに湧水ネットワークづくりにあたっては、武尊山周遊カルチャー&ネイチャートレイルづくりを展望、利根川上下流連携センターと連携し、流域住民の参画・交流を促す
- ・地域丸ごと博物館のコアセンターとしての滞在型施設を建設、又は藤原小中学校舎など既存施設の改造により有効利用、あわせて地元住民・児童を学芸員として育成することにより、地元雇用を創出するとともに、地域住民ならびに民宿ペンション群の活性化を図る

実現するための手段・役割

(1)手段・手順

- ・地域資源についてのコンセンサスを得る
- ・地元の担い手の意識調査
- ・地元・水上町・塾による推進チームの編成
- ・湧水,古道,遊休地,空き家,等調査
- ・藤原地域資源マップづくり
- ・行政、地域団体等の支援の確保
- ・受け入れ体制・案内人育成
- ・宝物を組み合わせたツアーイベント企画
- ・メディア、交通機関、等へ総合的情報提供
- ・地域資源整備実施

(2)役割の分担

地 元 情報提供、企画支援、案内・指導

- ・啓発、意識改革、担い手の発掘
- ・茅原・古道等整備の指導・実働、案内人
- ・地域文化の伝承と普及

水上町 企画・コーディネート、補助事業支援、広報

- ・田園空間整備事業の促進、補助事業サポート
- ・観光マップの充実、宣伝活動
- ・連携サポート、案内人育成サポート

森林塾青水 調査、企画支援、実施・人材支援

- ・講座を開催し都市住民のきっかけづくり
- ・自然資源の更なる調査とプログラムづくり
- ・茅原・古道等整備の実働

ターゲット

- ・癒し・生きがいを求める高齢者、年配者の夫婦 ――
- → 夫婦とその孫世代へ
- ・団塊の世代リタイアメント 生きがい、やりがい、余暇活用
 - -----
- ・特に首都圏の児童・学校の環境教育、総合学習、林間学校、サマーキャンプ

利根川流域住民

キャッチコピー/キーワード

歩いてみたい道 フットパス ふじわら ~ 上州浪漫街道、古道藤原の奥里山ぐらしを楽しむ ~ スローライフ、癒し癒しの郷ふじわら ~ 心の原風景、不便の極地あなたのふるさと、つくりませんか 首都圏の水瓶 ~ 湧水

地域資源活用の展開事例

団塊の世代の皆さまへ

"あなたのふる里"つくりませんか!! キャンペーン 首都圏の水瓶にすばらしいフィールドを用意しました ライフワークとして楽しみながら良い汗をかく そして、新しい出会いとときめき、感動体験

目指すゴール=共通の目標は

日本一の地域丸ごと博物館 = 現代の入会山 『森林コモンズ村・ふじわら』づくり 生命の水の源の地に"みんなのふる里"をつくります

どんな事をどんな仕組みで?

主に4つのプログラムに2006年から5~10年かけて取り組 みます

参画・協働・体験・交流型で展開します お好きなプログラムにいくつでも参加いただけます

私たちがお手伝いします

推准体制

「森林コモンズ村ふじわら」建設委員会 (「上の原の森」管理委員会) 森林塾青水/みなかみ町/地元・藤原区

パートナー

田園整備構想促進委員会、藤原案内人クラブ 民宿組合、藤原小学校・中学校 利根川上下流連携支援センター

協力・協賛(候補)

TR東日本、JTB、関越バス、京王バス 日本ウォーキング協会、日本レクレーション協会 群馬県、環境省、林野庁、国交省

どんなフィールド

日本人の心の原風景

- ・生命の水=清流のふる里 (ホタル、 モリアオガエル、 サンショウウオ、 イワナ、 他)
- きらめく星のふる里
- ・神々の信仰のふる里 (十二様、他)
- ・ロマンと伝説のふる里
- ・氷河期の草原性生物のふる里 (蝶、トンボ、邯鄲、他)
- ・元カヤ場を含む入会地
- ・「野焼き・茅かり」風物誌の里
- ・豪雪と保存食文化の里
- ・伝統芸能・工芸の里

日本の里地里山 30 保全活動コンテスト

どんな事をやるの? 4つのプログラムー 地域丸ごと博物館づくり

(エコミュージアム)

藤原・お宝発見隊

藤原ガイドマップづくり ススキ草原/森林再生プロジェクト 新しいカヤ場/現代版入会慣行 茅葺屋の葺き替えプロジェクト 諏訪神社、地元古民家、雲越家 住宅

上州浪漫街道作りプロジェクト 古道探訪・普請/フットパス作り(寺 山街道、青木沢峠、芦の田峠、 他)武尊山用遊歩道

どんな意味があるの?

社会的意義/自己充足

- ・水源森の保全(IJh-N、tラピ-ロ-ド、フットパス)
- ・奥里山の景観・風物誌づくり
- ・やりがい/生きがい/ときめき・憩い/癒し/やすらぎ
- ・自然ふれあい環境学習の場・機会の提供

- モットーは ・楽しみながら良い汗をかく
 - ・参画・協働・体験・交流
 - ・オールシーズン型/滞在型/リピート型

合言葉 =「飲水思源」・自然の恵みに感謝

- ・自然 / 仲間との共生き
- ・先人の知恵を大切に継承